

# 地域を支える病院における 特定行為研修修了者の活動

公立置賜総合病院

特定行為研修修了看護師 救急看護認定看護師

菅原明美

# 施設概要 (平成29年11月1日現在)

構成団体 : 山形県、長井市、南陽市、川西町、飯豊町

標榜診療科 : 23科

稼働病床数 : 441床

(一般病棟397床.救命病棟20床.感染症4床.精神科20床)

入院基本料 一般7対1 精神科10対1

看護職員数 : 401名.看護補助者73名

(認定看護師 : 9分野11名)

(特定行為研修修了者1名.特定行為研修受講中2名)

平均在院日数 : 13.4日

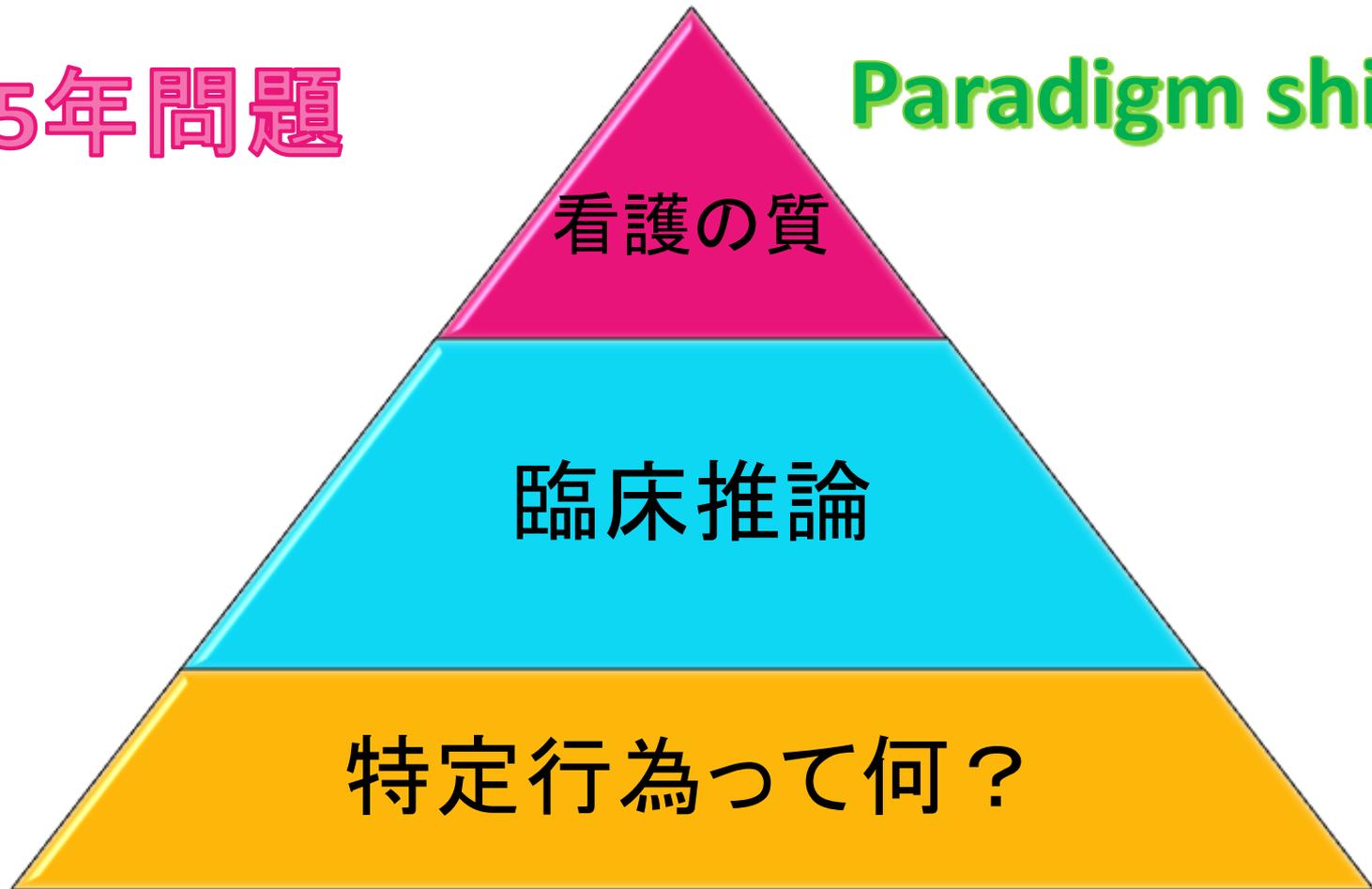
病床稼働率 : 82.6%



# 受講動機①

2025年問題

Paradigm shift



# 受講動機②

人に説明できるくらいに理解することが必要なのでは？

自分にできることはなに？

## 後輩育成

得た知識、技術を惜しみなく後輩に伝承する  
人の心を動かす積極的な実践者でありたい

# なんのために学ぶのか

## 目的

看護師の役割拡大  
看護師の判断能力の向上

## 方法

特定行為の研修

レベル	評価項目
1. 反応 Reaction	参加者は教育に対して、どのような反応を示したか
2. 学習 Learning	どのような知識とスキルが身についたか
3. 行動 Behavior	参加者は知識とスキルを仕事に活かしたか
4. 結果 Result	教育は組織と組織の目標にどのような効果をもたらしたか

患者

# 看護の質

現場

看護に自信を持っているか

患者と向き合っているか

看護師としての考えを持っているか

患者の尊厳や安全安楽の保持

連携をとっているか



患者

# 看護の力

現場

看護師としての成長



看護力の強化



医療チームが強化



病院医療の質が強化

地域医療の質が強化



# 実施可能な特定行為

## 動脈血液ガス分析関連

動脈血採血 Aラインの確保

## 瘻孔管理関連

膀胱瘻カテーテル交換  
胃瘻カテーテル交換

## 栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連

高カロリー輸液・脱水に対する輸液の調整

## 創傷管理

褥瘡 又は慢性創傷の治療における  
血流のない壊死組織の除去  
創傷に対する陰圧閉鎖療法

# 4つの特定区分を選択した理由

- 当院の現状から必要と考えられる行為
- 広く多い部署で実施できる行為
- 在宅、訪問看護を見据えた行為を選択

## 動脈血ガス分析関連

動脈血採血 Aライン挿入

## 創傷管理

血流のない壊死組織の除去

## ろう孔管理関連

胃瘻カテーテル交換  
膀胱瘻カテーテル交換

## 栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連

高カロリー輸液・脱水に対する輸液の調整

# 研修受講までの準備

1. 全国の研修機関を調べ情報を集める。
2. 研修にかかる費用と、期間を調べる。
3. 家族の協力の確認。
4. 上司へ相談。



# 特定行為研修開始から研修修了まで

1  
年間

共通科目e-learning開始

共通科目試験 終了

特定行為基礎実習 I . II 終了



区分別科目筆記試験

区分別科目実技試験



自施設での実習

\* 一部OSCEのみ指定研修機関にて受講



OSCEの様子



OSCEの様子

# 実際の特特定行為実施数

平成29年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	合計
血ガス	7	15	9	6	6	15	12	10	164
膀胱瘻	3	3	3	5	0	3	3	3	23
胃瘻	2	3	3	1	4	2	3	2	20

特特定行為  
開始

所属：救命救急センター

# 膀胱瘻カテーテル交換

直接的指示のもとに実施

現在症例数 3名

3～4週間毎にカテーテルを交換  
定期受診日において

泌尿器科外来において実施

実施後医師へ口頭で報告

スキンケアの評価と指導

# 膀胱瘻カテーテル交換の症例

## ◆ 膀胱瘻カテーテル交換に苦痛を持っている患者

患者に説明しながら精神的支援をし、刺激を少なく交換



苦痛の軽減

## ◆ 活動的な年代の膀胱瘻造設患者

腎盂バルーンカテーテルの材料変更による管理困難



生活しやすい材料の変更

QOLの向上



# 胃瘻カテーテル交換

直接的指示のもとに実施

毎週水曜日 胃瘻交換日

患者に説明を行い同意を得る



胃瘻サイズの確認 一般状態の確認



医師の立ち合いの元、胃瘻交換を実施

スキントラブルの評価と指導・緊急時の対応の指導

# 胃瘻カテーテル交換の症例

以前

ALS 人工呼吸器使用患者の場合



外科外来待合で  
1～2時間待機

医師による胃瘻交換



自宅よりALS協会の車で病院へ

現在

研修修了看護師による胃瘻カテ交換

⇒ 医師へ報告

胃瘻の状態を観察し胃瘻サイズの確認と準備

来院時すぐに  
救命センターの処置室か  
外科外来処置室、病室



+ 家族への保健指導

# 特定行為における効果

- ◆ 保健指導を含めて管理ができる。
- ◆ 緊急時の対応を指導できる。
- ◆ 特定行為を通して顔の見える関係性が構築できる。
- ◆ 患者の待ち時間を短くすることができる。
- ◆ 医師が外来診療に集中できる。

# 研修での気づき



- ◆ 医師の視点で看護師を見る機会により、  
新たな視点を持つことができた。
- ◆ 医師の思考過程を理解することで、  
協働に対する再認識を持てた。
- ◆ チーム医療の意識、他職種連携のあり方が  
見えてきた。
- ◆ 特定行為は、医療者としての人間性と信頼関係の  
上になりたつものであると感じた。

# 現在考えること

- ◆ 特定行為研修は医療安全への意識を高くし、批判的思考で考えることのできる看護師を育成する。
- ◆ 医師に対して、しっかりと患者の利益を考慮したことを交渉できる看護師は、専門性のある実践者となる。
- ◆ 特定行為は医療スタッフはじめ、患者との信頼関係に依存する。施設内で自身の存在価値を自ら高める努力が必要となる。

# 「特定行為研修制度」を活用し 看護の未来を創る

